

## 令和7年度 部会体制に関するアンケート結果

実施期間：令和7年3月6日～13日

回答人数：10名

(1) 令和7年度の取組内容(案)について

賛成する	3
おおむね賛成する	5
どちらでもない	1
やや反対	1

(2) 1の回答をした理由をお聞かせください。

- ・少人数化することで各自の発言の機会が増える
- ・目的を絞ったワーキンググループの方が、地域における就労支援の各プロセスに関する具体的な意見交換や取り組みにつながりやすいと考えるため
- ・現時点で中身がはっきりとしていないと思いますが、意味があると思われるため。
- ・部会員として所属していながら、年2回の会合への出席では、教育機関として参加させてもらっている役目を果たせないと考えます。少人数で、課題を明確に絞って話し合える、チーム制は賛成です。
- ・やや具体性に欠けるため、反対する理由はないもののイメージがわきにくい。
- ・次年度は、新しいサービスも加わりますし、昨今の法改正等でA型利用から事業所都合でB型サービスに変更することが多々あり(特に多機能事業所で)、利用者が不利益を被っている状況になっている現状があることを現場として目の当たりにしており、協議会として取り組む必要があると考えます。ワーキング形式で現状に沿った検討や課題への取り組みができると良いと思いました。
- ・取り組むべき内容が明確化され、役割分担をしたことで、就労支援部会長など中心的に動いている方々の負担が軽減できるため
- ・ワーキングチームの体制を敷くことで、これまでの部会体制以上に就労支援に向けた各取り組みの実行力が高まり、参加機関の多くが主体的に部会に参加してもらえんという点はとても良いと思います。しかし、今回の取り組みの中で気になるのが、ワーキングチーム体制で取り組んだものをどのような形で表出されるのかがイメージがしづらいと感じます。資料の記載では、親会(就労支援部会)がある中で、ワーキングチームにて、さらに課題の協議を行うような記載になっているため、むしろ、最終的にこういう企画を実行するためのワーキングチームですとしてもらった方が、どれくらいの頻度での開催が必要なのか、どういった構成員が必要なのかの検討をしやすいのではないかと感じました。
- ・合同説明会や総合交流会等は意義のある企画であるとは認識はしているが、就労部会として今後も継続していくことに対して疑問を感じる。理由としては、支援者側のニーズに開催しているためである。本来の就労部会の位置づけとしては福井市の就労機関では対応が難しい当事者の意見を検討し、より良いものを提供する場であると認識しているため、当事者から出た意見ではないことを就労部会として行うことに疑問を感じる。

(3) 参加しやすい曜日や時間帯があればご記入ください。

- ・水曜日の午前中
- ・15:00 以降が助かります。
- ・火曜や木曜がありがたい。
- ・特にありません。
- ・月曜日 PM、水曜日終日対応可能、木曜日 AM です。
- ・月曜日以外ですと幸いです。また、曜日や時間帯については、固定していただけると幸いです。
- ・特にありませんが、毎月第〇〇曜日と固定していただけると参加しやすいです。
- ・火曜日から金曜日の午後
- ・放課後の時間帯(15 時以降) 希望だが、年度初めに日時を早めに決めてくださると、スケジュールが組みやすい。
- ・水曜日午後は避けてもらいたいです。

(4) 参加形態(オンラインやメール会議の活用等)についてご意見があればご記入ください。

- ・集合形式だけでなく、多様な参加形態があると望ましい。
- ・オンラインを基本にして、必要時に集合が良いと思います。
- ・極力顔を合わせて会議をした方がいいと思いますが、開催頻度は状況に応じて検討していただけたらと思います。
- ・オンラインと集合のハイブリッド
- ・Google チャットなど
- ・毎回でなくても構わないが、オンラインでの実施回を作ってもらいたいです。